

# 第 1 号議案 2010 年度事業報告の件

## 1、「募金活動と会員の拡大」について

- ① ユニセフの募金活動や普及活動をより多くの方々と協力して進めていくために、「ユニセフ会員」の拡大を目指してきました。2010年12月末現在で231人（一般227、学生3、団体1）となっています。230人台のところから、なかなか伸びずにいます。

毎月一定額を募金するマンスリー募金に協力している方で「自分はユニセフ会員になっている」と思っている方が少なくありません。ユニセフの情報（協会から、県支部から）がより多く届けられる「会員」（年会費5,000円）になっていただいで、ユニセフの活動に参加していただくことが大切です。

- ② 「届けたい。すべての子どもたちにいのちを守る方法 を」をテーマに第32回ユニセフ ハンド・イン・ハンド（街頭募金）が全国一斉に行われました。県内では例年より1会場増え、6会場（5市）で次のように行いました。

12月5日（日） 福島市（福島駅東口）

会津若松市(COOP あいづ・にいでら店)

12月12日（日） いわき市（①鹿島ショッピングセンター・エブリア／②ラトブ）

郡山市（岩瀬書店富久山店）

12月15日（火） 白河市（福島県南生協天神町店）

各会場での募金状況・ボランティア参加状況は次の通りです。

福島市	75,587円	24人
会津若松市	21,829円	13人
いわき市①	67,805円	24人
いわき市②	32,953円	11人
郡山市	7,032円	7人
白河市	11,000円	7人

生協の組合員さんや小中学生から大学生の皆さんを中心としたボランティア86名によって、昨年を上回る過去最高の216,206円の募金が寄せられました。

- ③ 福島県支部の理事・評議員選出の各団体や小・中学校・高校・短大・大学・聾学校などの学校関係、また様々な民間団体、個人の方を含め、総額17,074,822円の募金（ユニセフ協会への直接送金を含む）が県支部に寄せられました。

募金贈呈式の新聞報道により、新たに募金を福島県支部に寄せてくれる団体・個人が年々増えてきています。ご高齢のご婦人が多額の募金をお寄せいただいたり、また福島刑務所の受刑者が新聞でユニセフの募金広報（海外援助）を見て、少ない労働報酬の中から募金を寄せていただくなどの事例がありました。

一般募金 15,427,403円

緊急募金 1,647,419円 募金総額 17,074,822円

（ハイチ 792,890円、パキスタン 827,929円、中東・アフリカ 26,600円）



- ④ ユニセフへの募金（一般募金、緊急募金）が福島県支部に寄せられ、県支部事務所において、或いは出向いて募金贈呈式を行いました。その都度、地元新聞社のご協力をいただいて報道していただき、県支部のホームページにも掲載してきました。



	月.日	募金団体等	種別	募金額	会場
1	8.30	福島市立第一小学校児童会	パキスタン	10,000	福島県支部
2	9.6	福島県高齢者大集会実行委員会	一般募金	20,000	福島県支部
3	9.29	福島商工会議所青年部	一般募金	52,204	福島県支部
4	11.9	福島県立聾学校	パキスタン	14,650	福島県支部
5	11.10	郡山カルチャークラブ	一般募金	188,000	郡山市民文化センター
6	11.12	福島学院大学のぎく祭実行委員会	一般募金	23,595	福島県支部
7	11.12	福島学院大学同窓会	一般募金	22,427	福島県支部
8	11.29	福島県立福島高校梅苑祭“ウメ横”	一般募金	125,824	福島県支部
9	12.9	生協コープふくしま・郡山	一般募金	24,135	福島県支部
10	12.22	福島歌謡協会	一般募金	34,000	福島県支部
11	2.28	福島歌謡協会	一般募金	45,000	福島県支部
12	3.8	福島市立松川小学校	一般募金	12,052	松川小学校

## 2、「広報活動・開発教育、ユニセフカード・グッズの普及」について

- ① 会津美里町の新鶴中学校において7月10日(土)に「新鶴小中学校PTA教育講演会」が行われ、「世界の子どもたちは、今？」と題して菅田俊雄広報担当が講演しました。新鶴中学校の全校生徒・小学校の6年生、保護者・教職員・地区住民の方、約200人の皆さんに熱心に講演を聞いていただきました。「ユニセフと地球の友だち」(ビデオ)上映後、テーマについての講演のほか、ネパールの学校教育のお話、更に対人地雷のお話も交えて行いました。



- ② 福島市立松川小学校では、3月8日(火)に6年生100人を対象に総合学習が行われました。6年生とJRC委員会が事前に全校で募った募金12,052円がユニセフ福島県支部に贈呈されました。授業は「世界の子どもたちは、今？」をテーマに行われ、地雷のレプリカ・水ガメ体験・パネル「ユニセフの願い」などにより、ユニセフの役割を実感していました。





③ 9月25日(土)、福島市・県交流協会等の主催による「結・ゆいフェスタ&ふくしま地球市民フェスティバル 2010」が福島市街なか広場を会場に開催されました。「多様な文化で彩られる地球市民のまちづくり」をテーマに、31団体が多彩な出展をして、約2,500人の来場者にアピールしました。ユニセフではパネル「ユニセフってなあに?」を展示、ユニセフクイズ、カード・グッズの販売、ユニセフリーフレットの配布により、市民に訴えました。

④ 日本ユニセフ協会では、1979年の国際児童年から「ユニセフ・キャラバン・キャンペーン」を始め、全国を順次巡回・訪問しています。最初の訪問県が福島県だったということです。学校事業部副部長の三上健氏と松本和哉主任が、10月28日・29日に訪れ、次のように福島県と小学校・中学校を訪問されました。

28日(木)・・・松本友作副知事・遠藤俊博教育長とのメッセージ交換、先生対象の研修会

29日(金)・・・福島市立福島第二小学校・田村市立船引中学校訪問 ユニセフ教室を実施



⑤ 11月11日(木)、生協のユニセフ担当者を対象に「ユニセフリーダー研修会」を労金ビル4階小会議室で17人が参加して、菅田俊雄広報担当の講師で行いました。

“公平ってどんなこと”をテーマに、何が「公平」で、何が「不公平」なのか、「不公平」にどう立ち向かうのかについて研修しました。

さらに“できること、しなければならないこと”をテーマに「権利と責任」についてグループ討議を行いました。



⑥ 「ユニセフ視聴覚教材」や「ユニセフ写真パネル」の貸出しによって、学校や団体等でのユニセフ理解の活動を支援してきました。

<貸出し団体>ガールスカウト福島、ボーイスカウト福島第5団、アゴラキンダーガーデン、南陽市立漆山小学校(2回)、福島市立永井小学校、二本松第一中学校、生協コープふ

くしま、生協コープあいつ、福島県南生協、福島中央市民医療生協、浜通り医療生協  
<貸出しビデオ> 私たちを忘れない、世界子供白書 2001/2003/2008、ユニセフと地球の友  
だち、なぜユニセフ募金なのか、よーこそボクらの学校へ、この世界に生きるこどもたち、  
小さな涙、子どもの権利、I am a child, I DREAM OF PEACE

<貸出しパネル> ユニセフってなあに？、私も学校に行きたい、過酷な労働から子ども  
たちを守る、子どもの参加が未来を作る

- ⑦ 日本ユニセフ協会では、昨年 5 月に「児童ポルノがない世界を目指して」緊急アピールを  
発表いたしました。このアピールには、全国知事会や日本赤十字社、全国連合小学校長会、  
全日本中学校長会、全国高等学校長会など 100 を超える団体や企業などから賛同をいた  
だき、次の 5 項目の実現をめざしています。

(1) 「児童ポルノ」一見ない、買わない、持たない、作らせない

(2) ブロッキングの早期実現 (3) 被害を受けた子どもたちの保護や支援の早期確立

(4) 取締りの強化 (5) 法改正の早期実現

今年の通常国会に向けて『「児童買春・児童ポルノ禁止法」の早期改正を求める要望書』を提  
出するために昨年から全国で署名活動が進められてきました。福島県支部では県支部の役員  
団体を中心に 1~3 月に署名活動に取り組みました。

その結果、12 団体で 3092 筆の署名を集約していただき、日本ユニセフ協会に提出しました。

- ⑧ ユニセフのカード・グッズを県支部事務所に常設展示して、また「ユニセフのつどい」や写  
真展などで普及を図ってきましたが、114,690 円の実績にとどまりました。

### 3、「ユニセフのつどい 2010 in ふくしま」について

子どもの権利条約成立 20 周年の一昨年 of “つどい” での成果を受け継いで、昨年は「子ども  
の権利条例制定をめざして」のテーマで約 100 人の参加のもと、コラッセふくしま多目的ホー  
ルで開催しました。

かつて日本ユニセフ協会広報室長として活躍され、現在も子どもの権利活動家として全国で活  
躍し続けている森田明彦先生（尚絅大学教授）に「世界は友だち～ユニセフと子どもの権利条  
約～」と題してご講演をしていただきました。

また、権利条約を実際の地方自治体において活かし「子どもの権利条例」として、子どもたち  
の参加も得ながら、先進的に進められている川崎市の小宮山健治様（川崎市生涯学習財団理事  
長）から「川崎市の子どもの権利条例～その制定から今日まで～」と題して実践的なご講演を  
お聞きすることができました。

・・・・感・想・文・よ・り・・・・

「世界に目を向けることと、自分たちが住んでいる地域の子どもの育ちにもかかわること  
と、両方を大切にしたい。条例完成までの道は険しいと思いますが、スムーズに進められる  
よう、陰ながら応援したいと思います。今日は収穫の多い研修ができたと感じています。

森田明彦先生

“眼からうろこ” …熱心に聴き入る参加者

小宮山健治理事長



#### 4、「写真展等による啓発活動」について

① 11月20日（土）から28日（日）までの9日間、南相馬市民情報交流センター・交流広場においてユニセフ写真展「危機にさらされる子どもたち～アグネス・チャンが見たイラクとモルドバ～」を開催しました。南相馬市・同教育委員会をはじめ国際交流協会、新聞社各社、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等15団体からご後援をいただき、期間中1万人を超える来場者により市民の皆さんにユニセフの一端をお知らせすることができました。また、南相馬市では初めてのユニセフ写真展で、これからのユニセフ活動を進めていく端緒となるものと期待されます。



② 次のように各団体の催事へ写真パネル等の貸し出しを行い、啓発活動を進めてきました。

- ・ 福島県南生協（7月25日）「サマースクール」  
「わたしも学校に行きたい」
- ・ 生協コープあいつ（9月2日）「平和のための戦争展 in 喜多方」  
「わたしも学校に行きたい」「ユニセフってなあに」
- ・ 二本松市立第一中学校（10月12日）「文化祭」  
「わたしも学校に行きたい」「ユニセフってなあに」  
「I am a child」「世界子供白書 2001」「世界子供白書 2003」
- ・ 浜通り医療生協（10月31日）「健康まつり」  
「ユニセフってなあに」
- ・ アゴラキンダーガーデン郡山校（10月31日）「ハロウween・ユニセフ・パーティ」  
「ユニセフってなあに」「ユニセフと地球のともだち」
- ・ 生協コープふくしま・郡山（12月10日）「ユニセフ ミニフェスティバル」  
「世界子供白書 2008・子どもの生存」
- ・ 矢吹町立中央幼稚園（3月7日）  
「なぜユニセフ募金なの」「すべての子どもたちのために」